

第5回認知神経心理学研究会の開催にあたって

名古屋大学 環境学研究科 八田武志
人間情報学研究科 箕一彦

認知神経心理学研究会も回を重ねて5回目の開催となった。この研究会は、もともとは東京都老人総合研究所の辰巳格氏と国立精神・神経センターの宇野彰氏が発起人となってはじめられたものである。最初は国立精神・神経センターで次に老人総合研究所で開催され、丁度それが交互に2往復した昨年、次は名古屋でと開催を要請されてうっかりと引き受けてしまった。何故か東京圏以外ではいつも名古屋からの参加者が多かったためだったと思う。

そもそも人間の認知とその基盤としての脳との関係については神経心理学の分野がいわゆるしにせであった。ヒトにおいて高度に発達した言語機能は動物実験によって調べることがなかなか困難であり、脳障害の症例からその機能とそれを担う部位を推測することが一つの主要な研究手段であった。しかし、近年に至ってPET、fMRI、近赤外光トポ、MEG（脳磁界）など脳活動の種々の非観血的計測法が普及し、健常者の脳活動について多くのことを知り得るようになった。しかし、これら脳活動観測で得られる結果と行動レベルの間には今後の研究によって埋められないければならない大きなギャップがある。

認知神経心理学研究会では、このような状況を踏まえて、健常、障害も含め認知的視点に立ってこれら2つのレベルの間を埋めて行くことをねらいとしている。今回の研究会を企画するにあたってどの程度の方に参加していただけるかということをもまず心配したが、既に70名を越える方々に参加の申込をいただき、最初の心配は杞憂に終わった。このような研究分野が今後ますます人々を引きつけて行くということを如実に示しているものと思う。

今回は特別講演として京都大学霊長類研究所の小嶋祥三先生に認知神経心理学と動物の研究について講演をしていただくことになっている。講演のレジメにもあるように、先生はヒト以外の霊長類との間にある差についての問いかけをされている。これに応えるような参加者の皆様からのディスカッションが期待される。また21件もの多彩な視点からの口頭発表がある。プログラムの関係上1件あたり20分の発表となってしまったが、休憩時間を多めにとるなどの配慮をしている。また、この研究会と一体となっている懇親会などを生かして種々議論をしていただければ幸いである。

とにかく全国的に有名な「暑い名古屋」での開催なので、服装等もリラックスして来ていただきたい。またスタッフ一同できるだけ良い環境でと一生懸命で皆様をお待ちしている。暑い名古屋で熱い交流が起ることを期待している。